



# 対馬海洋保護区しまうみ管理計画 令和元年度 実績評価と今後の計画

令和2年11月

対馬市

評価（進捗管理）	
◎	計画を上回る進捗
○	計画どおりの進捗
△	計画より少し遅れている
×	計画より著しく遅れている

## ■実績評価と今後の計画

No.	取組	基準年度	当該年度				次年度	
		2017 (H29)	2019 (R1)				2020 (R2)	
		基準年度	計画 (P)	実績 (D)	評価 (C)	改善 (A)	計画 (P)	
1	対馬海洋保護区しまうみの適切な管理	▶対馬海洋保護区しまうみ管理計画(案)の作成	▶【実行計画1】水産資源管理計画【磯資源】及び【実行計画2】対馬沿岸藻場再生計画の実行による適切な管理	▶【実行計画1】水産資源管理計画【磯資源】及び【実行計画2】対馬沿岸藻場再生計画について適切な管理を行った。	○	▶両実行計画について、計画どおりに実施できた。	▶引き続き計画に沿って実行する。	▶【実行計画1】水産資源管理計画【磯資源】及び【実行計画2】対馬沿岸藻場再生計画の実行による適切な管理
2	対馬海洋保護区しまうみの管理区域の拡大	▶対馬海洋保護区しまうみ管理計画(案)の作成	▶共同漁業権海域を対象に魚種・漁法毎の適切な管理方法の検討 ▶対馬近海ですでに資源管理を行っている区域の洗い出し 等	▶両実行計画を実施するとともに適切な管理方法等の検討を行った。	△	▶適切な管理方法の検討は行ったが、対馬近海ですでに資源管理を行っている区域の洗い出しについては行えなかった。	▶引き続き計画に沿って実行する。	▶共同漁業権海域を対象に魚種・漁法毎の適切な管理方法の検討 ▶対馬近海ですでに資源管理を行っている区域の洗い出し 等
3	必要に応じて、常設作業部会及び特定作業部会の設置	▶磯資源作業部会を設置(H29年1月) ▶藻場再生作業部会を設置(H29年3月)	▶定置網作業部会の設置検討 ▶新たに広報部会の設置検討	▶定置網作業部会及び広報部会の設置について検討を行った。	△	▶設置に向けた検討は進められているが、部会設置には至っていない。	▶引き続き部会設置に向けて検討する。	▶定置網作業部会の設置検討 ▶新たに広報部会の設置検討
4	【実行計画1】水産資源管理計画【磯資源】の実行	▶水産資源管理計画【磯資源】(案)の作成	▶対象水産物のモニタリング	▶対象水産物のモニタリングを実施した。	○	▶計画どおりに進んでいる。	▶引き続き計画に沿って実行する。	▶対象水産物のモニタリング
5	【実行計画2】対馬沿岸藻場再生計画の実行	▶対馬沿岸藻場再生計画(案)の作成	▶漁業集落、活動組織との連携強化 ▶食害生物の商品化に関する調査研究 ▶藻場に関する調査研究	▶対馬沿岸の藻場の保全・再生等、活動組織との連携強化を行った。 ▶食害生物の商品化及び藻場に関する調査研究を実施した。	○	▶計画どおりに進んでいる。	▶引き続き計画に沿って実行する。	▶漁業集落、活動組織との連携強化 ▶食害生物の流通等に関する調査研究 ▶藻場環境の情報共有に関する調査研究

No.	取組	基準年度	当該年度				次年度	
		2017 (H29)	2019 (R1)				2020 (R2)	
		基準年度	計画 (P)	実績 (D)	評価 (C)	改善 (A)	計画 (P)	
6	付加価値向上に関する取組	▶上対馬町漁協、九州大学と連携してトレーサビリティ社会実験を行った。	▶上対馬町漁協、九州大学との連携により、流通拡大に向けて引き続き協議・検討を行う。	▶大手百貨店や生協等への訪問を行い、鮮魚の流通拡大に向けて協議を進めた。	○	▶計画どおり進んでおり、調査・研究を進めることができた。	▶今後は試験的な市場流通を通して、更に研究を進める必要がある。	▶試験的な市場流通を通して、課題等の洗い出しを行い、関係機関との連携により引き続き検討を進める。
		▶水産エコラベルに関する講演会を開催した。	▶生産者に対して引き続きエコラベル認証に関する周知を行い、普及・推進に取り組む。	▶生産者に対する周知や普及・水深に取り組むことができなかった。	×	▶計画どおり進めることができなかった。	▶H30年度実施のアンケート結果をもとに、生産者への周知や講演会等の機会を確保していく必要がある。	▶生産者に対して引き続きエコラベル認証に関する周知を行い、普及・推進に取り組む。
7	対馬の海の魅力と重要性に関する情報発信	▶対馬市海洋保護区科学委員会報告書作製 (H26年7月) ▶対馬市海洋保護区科学委員会報告書【概要版】作製 (H27年4月)	▶イベント等で海洋保護区を知ってもらうために活用	▶イベント等で海洋保護区を知ってもらうための活用ができなかった。	×	▶海洋保護区設定について周知するための活用ができなかった。	▶引き続き、周知するために活用していく。	▶イベント等で海洋保護区を知ってもらうために活用
		▶国境の島海の魅力発信隊を設置 (H30年2月)	▶SNS、イベント等での情報発信 ▶漁協等へ隊員推薦依頼	▶YouTube、Facebookを活用して情報発信を行った。 (隊員4名、発信回数197回)	◎	▶隊員それぞれが、SNS等で積極的に情報発信を行った。	▶島外で開催されるイベントに参加して情報発信する。	▶SNS、イベント等での情報発信 ▶漁協等へ隊員推薦依頼
		▶対馬の海の魅力PR用リーフレット「対馬の海を知って！守ろう！」作製 (H30年3月)	▶イベント等でのPR活用、教材等に活用	▶市内小学校へ提供、活用した。 ▶市窓口にてPR活動を実施した。	○	▶小中学校の地域学習やイベント等で活用し、楽しみながら対馬の海のことを知ってもらうことができた。	▶引き続きPR活動、教材等として活用していく。	▶イベント等でのPR活用、教材等に活用